



武蔵村山市立第一小学校

学校だより

令和5年4月6日



もっと「みんなで遊べる学校」に

校長 押本 純樹

昨年度末、「こんな学校があるんですね。」と褒めてくれたのは、前養護教諭の仲澤先生でした。経験豊富な先生の何気ない健康面からひと言は、とてもうれしかったです。それは、コロナ禍やインフルエンザの流行といった中でも、一度も学級閉鎖をしなくてすんだことへの驚きの声でした。

ただ振り返ると、1学期末には校内のコロナ感染者が急増し、最終日は終業式だけを行い、すみやかに全児童を下校させました。3学期末には、インフルエンザが流行ったクラスがありましたが、休日の並びや残りの登校日から判断して、学級閉鎖はしませんでした。偶然の賜物で自慢することではないのかもしれませんが。

しかし、そうは言っても、昨年度はいつになく子供たちが元気だったように私も感じていました。そこには普段からお子様の健康管理に努めている各御家庭の御理解と御協力の上に、学校で外遊びを励行したからではないかと思っています。昨年度は、全校で外遊びに取り組み、週番の教員が記録する生活指導日誌には、「休み時間に外で元気に遊ぶ児童が多かった。」といった記述が、これまで以上に多く書かれていました。それが、感染予防対策ともつながって、功を奏したと考えています。

みんなと仲良く外で遊べれば、学校生活がもっと楽しくなるはずです。陰でこそこそするようないじめもいたずらもなくなっていく気がします。休み時間になると、子供たちが誘い合って、われ先にと校庭に出て、みんなと遊ぶ光景は、小学校の原点ではないでしょうか。子供たちの心身の健康は、まずは外遊びからと考えています。本校の子供たちに、もっとみんなで遊ぶ力を身に付けさせたいです。

学校は、人との関わり方や集団の中での役割や責任、安全管理といった様々な社会性や多様性を幅広く学ぶ場です。そういった学びは、時間割で決められた学習だけでなく、休み時間の遊びの中にもあります。後者にこそ必然性があり、身をもって学ぶことで、これから生きていくうえでの本当の糧になるのかもしれませんが。コロナ禍の収束を願いつつ、その閉塞感を吹き飛ばすためにも、今年度も「みんなで遊べる学校」をみんなで創ります。校内で特別支援教育の研修会を行ったとき、講師の先生からこの方針を大切にしようといふと何度も言われました。

新年度が始まりました。職員一同、力を合わせて子供たちの健やかな成長を支えていきます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。



昨年度の最後の中休み